

YOKOHAMA PORTSIDE



Art
&
Design

ヨコハマポートサイド／アート&デザイン街づくり

YOKOHAMA PORTSIDE
COMMUNITY
Little PRESS

うみかぜ



PUBLIC ART

YOKOHAMA PORTSIDE

- ヨコハマポートサイド地区内の主なパブリック・アート
- 「地殻より」ギャラリーロード 「dockyard- 記憶体積」ザ・ヨコハマタワーズ
「金港公園」(デザイン) 以上3作品 岡本敦生
- 「梳る時間-君の頬をなげる風-」高田洋一 ○「風の道」AZUMI ○「まるい言葉」畠山耕治
- 「Marrakesh」「design supermarket」ステファノ・ジョバンノーニ
- 「SOLFEGGIO」「Bird out of cage」「Couple&Dog」「Egg of the world」 以上4作品 ナディム・カラム
高田洋一作品からナディム・カラム作品までの9作品 ザ・ヨコハマタワーズ
- エットーレ・ソットサス「THE FAMILY」E2 街区
- エドガー・ホーネットシュレイガー 「シューベルク・プロジェクト」ロア壱番館エントランス

ギャラリーロード沿いに点在する「石」のオブジェ…

生地の石材ですから、そんなに派手やかに存在感を示しているものではありませんが、人工的にデザインされた空間の中で、自然な触感を残した石材たちは独特の存在感を示すものでもあります。

点在する石



ギャラリーロード沿いに点在している石の造形は、現在のランドマークタワーの場所にあった三菱重工横浜船渠ドックに使用されていた石材を用いて、

石の彫刻家 岡本敦生さんがプロデュースされたパブリック・アートの作品群です。この石材は、明治30年代に伊豆半島から切り出されたもの（新小松石）で、全て手彫りで加工されたものです。岡本さんは、そうした先人たちの足跡を残すため、あえて旧来の加工面を残し、ご自身の表現と調和させた計画を提案されました。

そして、このギャラリーロード沿いにあるこの作品群と、横浜クリエーションスクエア脇にある金港公園、ザ・ヨコハマタワーズ中央にある広場に設置された作品 dockyard - 記憶体積は、いずれも、同じ三菱重工ドックの旧材を用いた岡本さんの手による作品です。近代化とともに、横浜港で時を刻みつけてきた石材が、この街で、舗道に設置されていたり、あるいは公園になっていたりと、様々な形で人々の生活と触れ合いながら、ヨコハマポートサイド地区で新しい時を刻んでいます。

STRUCTURE

横浜ベイクォーター 北山孝二郎+K計画事務所



ロア参番館 長谷川逸子



コンカード横浜 矢萩喜從郎 (総合デザイン)

ソフトバンク IDC 横浜データセンター



マイケル・グレイヴス (壁画)

アルテ横浜
マイケル・グレイヴス





横浜駅から10分とかからぬ場所に この空間があるということ

ポートサイド公園という“魅力”

ポートサイド公園は1992年に行なわれた「ヨコハマポートサイド地区水際公園公開設計コンペ」の応募作品171点（登録件数526点）から第1等に選ばれた長谷川浩己さんのデザインによるものです。コンペでは横浜のデザイン都市の先駆けであるヨコハマポートサイド地区に相応しいデザインであるとともに「都市の中のやすらぎの空間」であることが求められていましたが、現在のポートサイド公園は、まさに「やすらぎの空間」であることを実現しています。



YOKOHAMA PORTSIDE

ポートサイド公園 主要部についてのイメージ・スケッチ

【ギャラリーブロード】エノキ並木と舗装から構成され、長さ400mにわたり建物群の南面をつなぎ、低層レベルの商業施設と結びついた活気ある線形プラザ空間を形成する。高層ビルの垂直軸と明解な対比なす強い水平軸はポートサイド地区全体を抱きかかえる緑の腕である【中央広場】ステージやテーブル、椅子を配し、ここでは野外コンサートなども開かれる。ギャラリーロードからの眺めとして、ビルの中に突然現れる緑のうねりは大きなインパクトを持ち、地区全体の景観の中で重要なエレメントのひとつとなる。緑の芝生に埋められた赤いボディウムはベンチであり、また彫刻の台座である【うねる芝生】幾重にも折り畳まれた芝生のうねりは太陽の動きによって刻々と姿を変える。適度な傾斜は腰を下ろしたり、寝そべるのに最適であり、水面を臨む観客席となる。【東西広場】レンガ舗装と鉄の壁、鉄の円柱により構成される。天幕を張ってイベントなどに使われる。円柱のいくつかは開口部を持ち、人はその中で切りとられた空を見上げる。【アシ原】アシ原は季節を映し、風になびく原風景の断片である。人々はデッキの上からアシ原の中に立つことができる。アシ原の中に整然と建ち並ぶアルミボール。水面からつきだすアルミボールの浮標は波を受けて揺らぐ。夜は先端に隠し込まれたLEDがランダムな点滅を始める。

GALLERY ROAD 第4号 (1993年3月発行)「ヨコハマポートサイド地区水際公園について」より

ギャラリーロードから公園に入る、その入口付近には「うねる芝生」があります。

長谷川さんは、GARRELY ROAD 第4号に寄せた文章のなかで（この芝生について）「幾重にも折り畳まれた芝生は太陽の動きによって刻々と姿を変える」「適度な傾斜は腰を下ろしたり、寝そべるのに最適であり、水面を臨む観客席となる」と語っていらっしゃいます。

長谷川さんは、この空間を、訪れる人が、自然に「季節の流れ」や「一日の時間の流れ」などを体感しながらおもしろい時間を過ごしてもらえようと、この空間をデザインされたようです。

ポートサイド公園は、活気ある、あの横浜駅東西口という空間から、徒歩で10分とかなめ場所にあります。しかしながら、この空間には、そうしたことがまったく信じられないほど、やさしい時間が流れています。



昼休みを過ごす会社員の方がいらっしゃったり、お子様と遊ぶパパやママがいたり、ベンチに座って読書をされている白髪の紳士がいらっしゃったり、たまには釣り竿を片手にしたわんぱくの少年たちに出会うこともある…みなさん、それぞれに、おだやかな時間を過ごしていらっしゃいます。

かつては毎年10月になると、この公園でアート緑日が開催されてきました。この数万人を動員するイベントでしたが、それでも喧噪とはほど遠いおだやかな時間が流れていました。

ふっと立ち止まることができる。立ち止まれば風を感じることができる。

今日という時代にあれば尚のこと、このことはとても貴重なことです。私たちはポートサイド公園という空間を大切にしていきたいと考えています。

※アート緑日は、現在コンカード横浜の公開空地や横浜クリエーションスクエア・アトリウム周辺で開催されています（いずれもヨコハマポートサイド地区内）。

公園でちょっとインタビュー

- 子どもたちを遊ばせながら、よく、ここでひなたぼっこをしています。 30代女性 主婦
- ランチのあとに、このベンチで海を見ながらボーッとしているのが好きなんですよね（笑）。30代男性 会社員
- たまにですが、天気の良い日にはここにきて本を読んでいることがあります。 70代男性 会社役員
- 買い物の帰りに真っすぐ家に帰らずに、少し、ここで海からの風にあたっていることがあるんです。50代女性 主婦

400mの海辺

水ぎわに沿って約400m続くプロムナードはエノキの並木と石畳が特徴になっています。低層部の商業空間との連動性を豊かにしたいということから、当初より街区部分と公園との境界はあいまいなものとしてデザインされたようです。

また、水ぎわには、当初より葦原の復元ということが織り込まれていました。葦原につきでた木製デッキに立つと、直接、その葦原に立って海辺に臨んでいるような感覚を味わうことができます。

長谷川さんは、行政が管理する上ではここは公園ではあるけれど「ここはヨコハマポートサイド地区の歩行空間の一部であり、周辺の街区へ、そして地区外部へとつながっていく空間である」ともおっしゃっています。



アート縁日

アート縁日は、年に1回の開催を継続し、2013年で22回目の開催を迎えました。現在は、アート・フリーマーケット、アート・フェスなどという名称で一般化しているイベントの先駆けとなった催しです。

アート縁日は、そうした造り手と受け手の「距離」を近づけることはできないかということから企画されたイベントです。アート縁日という名称は「アートと縁結びができる日」あるいは「アートで縁結びができる日」という意味合いから名付けられました。



1996年秋に開催された第5回におよそ半数を、第6回では全ての出展者の方を公募するかたちにして、これ以後はプロフェッショナルの方もアマチュアの方も同じ条件で出店していただいています。この頃からアート縁日は、主催がつくる「アート縁日」ではなくなってきたのだと思います。出展者の方の想い、来場者の方の期待…それぞれの力が共鳴するかたちで「アート縁日」がたちづくられるようになってきたのでしょう。そして、そのことが「アート縁日」の新しい魅力になっていったのだと思います。

現在は、親子での出展。ご一家での出展、また80歳を過ぎたご高齢の方の出展など、アート・フェスには珍しく来場者の方も含め、アット・ホームでおだやかなものになっています。

現在は、非日常なアートやデザインだけでなく、日常の生活空間に彩りを添える作品を歓迎しながら100グループほどの出店規模で開催しています。造り手と来場者の方が直接話し作品を通じて交流する…作品を鑑賞するアートからもう一步踏み込んだ市民とアートの出会いを求めて、1994年にはじまったアート縁日は、これからも新しい試みを重ねていきます。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団による

音楽の街づくり事業

2012年から、神奈川県内唯一のプロフェッショナル・オーケストラ「神奈川フィルハーモニー管弦楽団」は、ヨコハマポートサイド地区で、地域住民や店舗、企業との新しいコラボレーションのスタイルをつくり出していくため実験的な事業を行っています。

地区内にあるコミュニティ施設やレストランなどを利用して、演奏会を実施し、これからは、さらにファン・メイクのための活動を展開していく予定です。



幸ヶ谷集会所にての
弦楽四重奏コンサート

横浜ディスプレイミュージアム

飲食店、銀行、病院、学校、小売店、美容院などの商業施設。街の主役ともいえる、それらの商業施設は常になにかしら新しい情報を発信していく必要があります。そこを訪れる人々、暮らす人々もまた、それを求めています。横浜ディスプレイミュージアムは、そういった情報を視覚化する手法としての「ディスプレイ」を研究する国内唯一の研究機関です。豊かで潤いのある生活を創造するために、また活気のある経済活動を創出するために、社会的な視点から求められるディスプレイのあり方を、ハードとソフトの面から提案しています。

また、ディスプレイミュージアムは、国内最大級のディスプレイ/デコレーションアイテム専門店でもあります。

1階はサインボード、フェイクフード、人工樹木、照明、家具など、店舗空間を演出するグッズをスタイル別に展示販売する「ディスプレイマーケット」。2階は「フラワーマーケット」。自社工場で生産される完全オリジナルのアーティフィシャルフラワー、プリザーブドやりボン、花器などを展示販売しています。

デザイン講習会や作品の展示会なども行われ、未来のディスプレイクリエイターを養成する専門校も併設されています。



The museum of a town

ショップ営業時間 10:00～17:30

定休日 日曜、祝日（土曜不定期）

所在地 アルテ横浜 1～2階

電話番号 045-441-3933

宮川香山 眞葛ミュージアム



わが国を代表する貿易港であった横浜港近くには、開港当時から様々なジャンルの名工たちが集まっていました。その中でも眞葛焼（まくずやき/陶磁器）は出色のもので、この窯を開いた宮川香山（初代）は、明治9～11年、欧米で開催されていた万国博覧会で相次いで顕彰され、欧米の専門家たちを驚愕させていました。

その後、初代香山は、明治29（1896）年、今日でいうところの人間国宝にあたる“帝室技芸員”に選任されるなど、押しも押されぬ名工として歴史に記憶される存在になっていきます。しかしながら横浜大空襲にて工房は焼失。香山の名跡を継承していた三代目香山も家族、スタッフともに亡くなるという不運に遭い、眞葛焼は「幻のやきもの」になっていきます。

「宮川香山 眞葛ミュージアム」は、ヨコハマポートサイドロア参番館1階、ポートサイド公園の入口向かいにあります。このミュージアムにはわが国有数の眞葛焼コレクター山本博士さんによるコレクションが展示されています。



開館時間 10:00～16:00

開館日 土曜日、日曜日のみ開館（但し年末年始など休館あり）

尚、平日でも4名様以上でご来館をご希望の場合は、

4日前までにご相談ください。臨時開館できる場合もございます。

入館料 大人500円/中・高校生

所在地 ヨコハマポートサイドロア参番館

電話番号 045-534-6853

管理・運営 株式会社三陽物産

2014 MARCH



街づくり協議会 会員企業及び団体

株式会社 大塚商会
株式会社 加藤美峰園本舗
株式会社 KTグループ
菱重エステート 株式会社
京急開発 株式会社
株式会社 相鉄アーバンクリエイツ
中外倉庫運輸 株式会社
独立行政法人 都市再生機構
ソフトバンクテレコム 株式会社
畠山物産 株式会社
三井不動産 株式会社
三菱重工業 株式会社
三菱倉庫 株式会社
ハドソン・ジャパン 株式会社
公益財団法人 横浜市建築助成公社
横浜市住宅供給公社
株式会社 ランドビジネス
横浜市

web-site = <http://www.portside.ne.jp/>

編集 ヨコハマポートサイド街づくり協議会 アート & デザイン・コーディネーター事務局

phone 045-534-8879